

まごころだより

2018年3月号



1月の中頃、前々から受けるようにと言われていた日帰りの簡単な手術を受けました。手術は2時間ほどで終わり、5日間分の薬をもらい、1週間後、抜糸のため来院するようにと言われて帰宅しました。その薬の中にあつた抗生剤の副作用によると思われる出血性腸炎をおこし、手術後6日目に緊急入院しました。入院後、出血が止まるまでの5日間は、食事は勿論水分も服薬時以外は禁止。点滴のみの生活でした。その後、三分粥にミキサー食や刻み食が3日続き、食べても異常がないと判断されてやっと退院。8日間の入院生活でした。その間体重は1割近く減。体力がなかったのでしょう、家の中でもマスクをし、外出を控えて過ごしていたのに、今度は風邪。インフルエンザではなかったものの、2週間以上微熱が続きました。あれやこれやで、1月中旬からおよそ一ヶ月間体調不良の日が続き、家族は勿論、周囲の人にも心配や迷惑をかけてしまいました。



なかなかやって来ませんでした。入院中、周囲の人や看護師の様子を聞いているとなかなか面白かったし、考えさせられることも沢山ありました。例えば、同室の向かいのベッドの人は認知症で、何かあればナースコールを押すようにと言われるのですが、分かるはずもな

1月の中頃、前々から受けるようにと言われていた日帰りの簡単な手術を受けました。手術は2時間ほどで終わり、5日間分の薬をもらい、1週間後、抜糸のため来院するようにと言われて帰宅しました。その薬の中にあつた抗生剤の副作用によると思われる出血性腸炎をおこし、手術後6日目に緊急入院しました。入院後、出血が止まるまでの5日間は、食事は勿論水分も服薬時以外は禁止。点滴のみの生活でした。その後、三分粥にミキサー食や刻み食が3日続き、食べても異常がないと判断されてやっと退院。8日間の入院生活でした。その間体重は1割近く減。体力がなかったのでしょう、家の中でもマスクをし、外出を控えて過ごしていたのに、今度は風邪。インフルエンザではなかったものの、2週間以上微熱が続きました。あれやこれやで、1月中旬からおよそ一ヶ月間体調不良の日が続き、家族は勿論、周囲の人にも心配や迷惑をかけてしまいました。

今回は大阪府の地方都市、地元では脳神経外科病院として有名な、民間の総合病院に入院しました。部屋は4人部屋。病室はナースステーションから近く、部屋の扉はいつも全開。何かあればすぐに駆けつけられる部屋との説明でしたが、ご多分に漏れず、看護師は



なかなかやって来ませんでした。入院中、周囲の人や看護師の様子を聞いているとなかなか面白かったし、考えさせられることも沢山ありました。例えば、同室の向かいのベッドの人は認知症で、何かあればナースコールを押すようにと言われるのですが、分かるはずもな

く、いつも大声で「すみませ〜ん」と叫んでいます。看護師は分かっているのか分かっていないのか「ナースコール押してね」と言って戻っていきます。認知症の人にも対応するナースコールはないのかと思ったものでした。また隣のベッドの人は半身麻痺で寝返りもできません。夜間にナースコールを押して体位の変換を頼んでも「ちょっと待ってね、今、向こうの部屋から順番に回ってくるから」と言うのですが、その「ちょっと」が「1時間後」なんてことはしょっちゅうでした。私は隣の人がいづつ介助してもらえるのかと気になって眠れません。人手不足という病院側の事情もあるのでしょうか「それは病院の問題でしょ。患者にそのツケを回していいの？」と思ったりもしました。病院はまさか私のようなスパイ的な人間が紛れ込んでいるとは思いませんでした。世の中どこに誰がいるか分かりません。患者が全て認知症や物言わぬ善良な患者ばかりとは限らないのです。

入院中「すみません」という言葉について思うことがありました。

私の向かいのベッドの人は携帯酸素を引

<利用者が職員を救済！！>

っ張っている80歳を越えた女性。息子夫婦が付き添って入院してきたときに、「ばあちゃん、ここに入院して2.3日点滴してもらったら家に帰れるから」という説明に「何言うてんの、ここ、わての家や」「ばあちゃん、ここ病院やから」と息子に言われて「誰がそんなこと決めたんや」と掛け合い漫才のような会話をしていました。それを聞いていた看護師が「場所が変わると、興奮されることもあるので、興奮を止める薬や眠る薬を処方することもあります。危ないですから、拘束させてもらうこともあります」その言葉通り、ベッドから起き上がれないように拘束されていたらしく、トイレも行かなくていいように導尿されているというのが、気配から次第に分かってきました。入院初日は薬の配合がうまく行かなかったのが、一晩中「すみませ〜ん、誰か助けてくださ〜い」と叫んでいましたが、なかなか誰も助けに来てくれませんでした。たまに来て、「〇〇さん、酸素外すから苦しくなるんよ、外したらあかんよ、ここにナースコール置いとくからね」と言って帰っていきます。そんなことが一晩中続いていました。その後次第に薬がうまく効いてきたのか、夜間は静かになりました。が日中はコップでベッドの柵をガンガン叩いて「すみませ〜ん、助けて下さい、誰かいませんか」と叫んでおり、事情を知らない見舞客の人が看護師さんをお呼びすることもありました。

また、隣のベッドの人は下半身が麻痺しており、寝返りも打てない状態です。自分の体位などに関して看護師の手を患わせることが多く、そのたびに「すみません、もうちょっと腰を後ろに」とか「すみません、もうちょっとベッドの頭の方を下げてください」とかお願いしています。そして最後にはやはり「すみません」と言います。

この「すみません」という言葉ですが、元来は「済みます」（物事が完了する）と「澄みます」（心がすっきりする）という二つの意味に「ん」という打ち消しの言葉がくっついたものです。ですから、「すみません」は物事が終わらず申し訳なく、自分気持ちもすっきりしないという『謝罪』の意味が第一義になります。

またこの言葉は『感謝』の意味にも使われます。何かしてもらった時に、申し訳なく思ひ自分の気持ちがすっきりしないというものです。別の言葉で言い換えると「ありがとう」にあたります。

そして更に「依頼」や「呼びかけ」の時にも使います。何かを頼むときは相手に何らかの負担を掛けることになります。それに対し

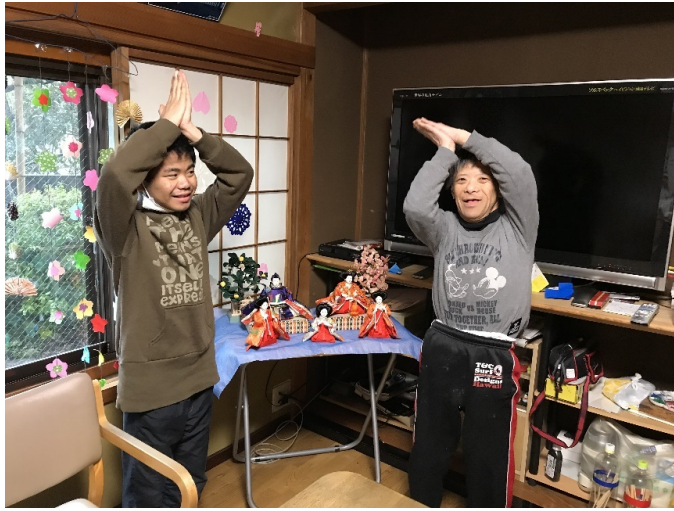
て、感謝と謝罪の気持ちをこめて「すみません」と言うのです。『呼びかけ』も同様に「手を止めさせて申し訳ないけれど・・・」という気持ちの表れでしょう。

私の向かいの認知症の人は呼びかけで「すみません」と言い、隣のリハビリの人は、依頼と感謝の意味での「すみません」を使っています。

この二人の「すみません」を聞いていて、亡くなった久津谷の義母と実家の父のことを思い出していました。久津谷の母は末期の胃癌の手術を受け、余命半年と言われていましたが、2年間がんばってくれました。一時は本当に元気になって、大好きな孫娘と温泉旅行に数回行きました。次第に何も出来なくなり、亡くなる2ヶ月前の朝、「もう起きれんようになった。このまま寝てる」と言って寝たきりになりました。義母は最期までしっかりした人で、何をしても必ず「ありがとう」と言ってくれました。水を飲ませてあげても「ありがとう」。体動かしてあげても「ありがとう」。「すみません」とか「すまないね」ではなく「ありがとう」とストレートに感謝の言葉を言ってくれていました。気持ち良かったです。（利用者が職員を救済！）

一方私の父は「すみません」派でした。脳梗塞で強い麻痺が残り大変な体で5年間自宅で過ごし、亡くなりました。頑固な昔気質の人だったので、誰かの世話になるのは気持ちが許せなかったのでしょうか。月に数回里帰り介護をする私に「すまん、すまん」と言い続けました。母にも「すまんなあ」と言っていたようで、母が「なんで謝るの、謝らんといい、当たり前のことやよ」と父に言ったと言います。父は素直に感謝の言葉が出せなかったのでしょうか。「すまんなあ」という謝罪の言葉で感謝の気持ちを表現していたのだと思うのです。私には父のプライドが痛いほど分かるので「すまんなあ」というのは最高の感謝





の気持ちだったと理解しています。でも、素直に「ありがとう」と言っただけ「ありがとう」と置き換えることにしています。道を譲ってもらって「ありがとう」。間違いを指摘されても「教えてくれてありがとう」。入院中も食事運んでもらって「ありがとう」。家族が見舞い

最近私は「すみません」をできるだけ「ありがとう」と置き換えることにしています。道を譲ってもらって「ありがとう」。間違いを指摘されても「教えてくれてありがとう」。入院中も食事運んでもらって「ありがとう」。家族が見舞い

<男の子の節句かな？>

に来てくれても「ありがとう」です。「すみません」と謝罪の気持ちを含んだ感謝ではなく、「ありがとう」と素直に感謝する。それは、最期の時に「ありがとう」と感謝して終わっていくのか「すみません」と謝って終わっていくのか。そこに繋がってくると思うからです。

最期の時に一人ひとりに感謝の気持ちを持ち、穏やかな気持ちで最期を迎える。そんな生き方をしたいと思いますが、気をつけないと、謝罪ならまだしも恨みの言葉で人生を締めくくったしまいかねません。『良く死ぬことは、良く生きること』と肝に銘じたいと思います。

3月の行事予定

- | | |
|--------|------------|
| 2日(金) | ハーモニカ演奏 |
| 5日(月) | 小物づくり |
| 7日(水) | ピアノ演奏 |
| 13日(火) | 惣菜又はお菓子づくり |
| 15日(木) | 日本舞踊ほか |
| 17日(土) | 歌謡ショー |
| 29日(木) | 食事会 |

